

東日本大震災とそれにもなって起こった福島原発崩壊の自体は、私たちの世界が、災害をも含めて、自然と人間の力によってできていることをまざまざと見せつけました。自然が地震を起こし、人間たちの作りだした今日の現実が福島原発の崩壊という事態を生みだしのです。

そして、この現実を乗り越えていく力もまた自然と人間の力にあるといってもよいでしょう。自然の営みがこの事態を乗り越えさせていき、人間たちが力を集めて新しい社会をつくりだしていく。そこにこそ復興があるのだと思います。

片品村の人たちが福島を被災者を受け入れ、暫くともに暮らすことを決意されたことに敬意を表します。この決断は本当に必要な人間の力とは何かを教えてくださいました。科学や技術を過信して自然と敵対した時代の象徴とでも言うべき原子力発電も、人間の力が作りだしたものでした。しかしいま求められている人間の力とはこのようなものではなく、人が人を支え、さまざまな表情を見せる自然とも折り合いをつけていくことができる、そんな人間の力なのだと思います。震災と原発崩壊というかたちで発生した危機を乗り越えていく力は、巨大技術や巨大システムにあるのではなく、何とか自然と折り合いをつけていこうとする人間たちの知恵や営みにあることを、人と人の結び合いから社会をつくりだしていこうとする人々の活動のなかにあることを、今日の事態は教えています。

4年間「哲学塾」を受け入れてくれた片品村の人たちに、わたしたちはまず連帯の意志を伝えましょう。義援金を集め、「哲学塾」をとおして生まれた片品村の人たちと私たちの結びつきは、「片品村哲学塾」が終わったいまも健在であることを、いろいろなかたちで示していきたいと思います。

内山 節